

あ と が き

「科学的な感性、科学的なものの見方・考え方はぐくむ」をテーマに、文部科学省の開発指定を受けた研究を進めて、3年間を終えようとしています。

この研究では、附属長岡校園の立地条件を生かし、幼・小・中12年間を見通した教育課程の編成を目指してきました。今、この3年間を振り返ってみると、その歩みは小さなものであったことを痛感しています。それは、「教育課程の編成」という作業が遠大であり、また実証性に富むものとして提案することの難しさに由来するものでした。

小学校では、生活と自然や科学とのかかわりを大切にしようと考え、「自然科学科」や「科学探究科」の教科を新設し、実践して参りました。この実践は、新設教科の特色をどこに出すか、その内容はどのようなものにするか、そのことで子どもの学力は従来に比して維持向上されるのか、時数的なしわ寄せを受けた教科の指導内容や学力はどのように保障されるのか、等々の諸課題への取り組みでもありました。

したがって、私たちの提案は、「教育課程の編成」というような大仰なものではなく、教育課程の極めて限られた部分について、「このような取り組みを進めてはどうでしょうか」という程度のものにしかできませんでした。

一方で、この研究を進める中で得た大きな財産もあります。それは、算数・数学や理科などの科学系教科に限らず、どの教科においても子どもが自らの課題解決に向かうとき、「科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」を働かせることにより、解決への手がかりをより鮮明に得られるということを実感したことです。開発指定研究2年目から、附属長岡校園全体の研究テーマとして「創造的な知性を培う」を設定し取り組んでいますが、このテーマと相俟って、授業改善に向けた取り組みを継続・深化して参りたいと考えています。

昨年は、10月23日の中越地震のため、11月に予定されていた教育研究協議会を延期せざるを得ませんでした。あれから1年。時の経過とともに震災の記憶の風化を危惧する声が聞かれます。災害の大変さだけでなく、困難に立ち向かう人々の絆の強さや全国から寄せられた温かいご支援に対する感謝の気持ちを、心の財産として、子どもたちとともに持ち続けたいと念じています。

ご支援くださいました皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

附属長岡小学校 副校長

山 田 正 夫